



こんにちは

魚沼市議会

令和6年
第4回定例会
No.88

謹賀新年



小出スキー場



薬師スキー場



魚沼須原スキー場

Contents

- 定例会・補正予算・議案賛否の状況 2～3
- 一般質問 4～11
- 聞かせて！あなたの声「Voice」 12
- 中学生議会を開催しました 13～15
- 常任・特別委員会報告 16～18
- 議会報告会結果報告 19
- 市民の声・議会広報に関するアンケート・あとがき ... 20

【発行責任者】 議長 森島 守人

【広報広聴特別委員長】

大桃 俊彦

【副委員長】 大平 恭児

【委員】 桑原 郁夫・横山 正樹
星 直樹・富永 三千敏

新年の挨拶



議長 森島守人

あけましておめでとうございます。

魚沼市議会を代表し、新年のごあいさつを申し上げます。

元気あふれる市民の皆様とともに、新たな一年の幕開けを祝うことができますことを、大変光栄に存じます。

昨年を振り返ると、元旦に発生した石川・能登半島地震に始まり、日本各地で大きな自然災害や事故が発生し、改めて危機管理の大切さを痛感させられたものです。

一方、夏にはパリオリンピック・パラリンピックが開催され、日本選手団の活躍は日本国民に大きな感動と元気を与えてくれました。

その年の世相を漢字一文字で表す、「今年の漢字」は「金」でした。パリ五輪、パラリンピックの金メダルの「光の金」と政治の裏金問題の「陰の金」の二面性、「佐渡の金山」の世界遺産登録も大きな理由となりました。

そして、魚沼市市制施行20周年の節目の年であり、衆議院解散による総選挙、魚沼市長選挙と市民にとって、大きな選択がなされた選挙の年でもありました。

市議会といたしましては、多様化する社会・経済情勢の変化を的確に把握し、市民の皆様の負託に応えるべく、ニーズを敏感に捉え「このまちに住んで良かった」と実感できるまちづくりに邁進してまいりますので、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、市民の皆様のご健康とご多幸、そして、魚沼市のさらなる発展と本年が飛躍の年となることをご祈念申し上げます。新春のご挨拶と致します。

第4回定例会報告

令和6年第4回定例会が12月9日から12月26日の18日間の会期で開催されました。議会初日に、一般会計補正予算（第4号）をはじめ7件の補正予算と魚沼市生涯学習センター什器類の財産の取得について可決しました。12月18日と19日には、16人の議員が一般質問を行いました。最終日には、各委員会付託の議案は、いずれも原案のとおり可決され、請願1件が採択されました。議員発議の意見書2件を可決しました。また、副市長の選任について同意しました。

第4回定例会補正予算

	補正前の額	補正額	計	主 な 内 容
令和6年度魚沼市一般会計補正予算（第4号）	376億260万円	17億9,320万円	393億9,580万円	住民税非課税世帯に対して灯油購入費助成の計上、ケーブルテレビ解約に係る移行支援金の追加、実績見込みによる障害福祉サービス給付費の追加、児童手当の制度改正に伴う扶助費の追加、農地の集積や集約化に対する協力金等の追加、人事異動及び新潟県人事委員会勧告等による一般職員給与費等の調整及び会計年度任用職員の給与改定に伴う補正
令和6年度魚沼市一般会計補正予算（第5号）	393億9,580万円	4億590万円	398億170万円	国の補正予算に係る物価高騰対応重点支援、地方創生臨時交付金の配分に伴い、住民税非課税世帯に対する3万円及び子ども加算2万円の給付金事業費、生活者・事業者向け支援策のプレミアム付き商品券事業費の計上
令和6年度魚沼市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	32億3,870万円	1,030万円	32億4,900万円	人事異動及び新潟県人事委員会勧告等に伴う給与費の調整、社会保障・税番号制度システム整備等の国庫補助金等の増額に伴う財源の調整、過年度の交付金の精算による償還金確定による追加
令和6年度魚沼市介護保険特別会計補正予算（第2号）	52億8,130万円	920万円	52億9,050万円	人事異動及び新潟県人事委員会勧告等に伴う給与費の調整、通所型サービス事業の実績見込による負担金の追加、地域支援事業の国庫交付金の償還金の追加
令和6年度魚沼市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	9億9,400万円	220万円	9億9,620万円	人事異動及び新潟県人事委員会勧告等に伴う給与費の調整
令和6年度魚沼市病院事業会計補正予算（第1号）	収益的収入	10億9,600万円	160万円	給与費に充当する企業会計費用分の追加
	収益的支出	10億3,600万円	160万円	人事異動及び新潟県人事委員会勧告等に伴う給与費の調整
令和6年度魚沼市ガス事業会計補正予算（第1号）	収益的支出	18億7,700万円	1,100万円	職員の給与改定、児童手当制度の拡充及び人事異動に伴う追加
	資本的支出	2億5,700万円	▲2,410万円	職員の給与改定及び人事異動に伴う追加、ガス製造所の気化器修繕が完了見込となったことによる減額
令和6年度魚沼市水道事業会計補正予算（第1号）	収益的支出	8億5,900万円	▲610万円	職員の給与改定、児童手当制度の拡充及び人事異動に伴う減額
	資本的支出	8億7,800万円	170万円	職員の給与改定、児童手当制度の拡充及び人事異動に伴う追加
令和6年度魚沼市下水道事業会計補正予算（第1号）	収益的支出	23億6,400万円	370万円	職員の給与改定及び人事異動に伴う追加
	資本的支出	15億6,800万円	320万円	職員の給与改定及び人事異動に伴う追加

第 4 回定例会議案等

◎＝全会一致 ○＝賛成多数で可決・承認・採択・同意・適任 ×＝否決・不採択・不承認

議案 番号等		付 議 事 件		議決 結果	議案 番号等		付 議 事 件		議決 結果
予 算	議案 第120号	令和 6 年度魚沼市一般会計補正予算(第 4 号)		◎	条 例	議案 第138号	魚沼市ふるさと回帰育英奨学金貸与条例の一部改正について (ふるさと回帰育英奨学金の目的である人材の育成とふるさとへの回帰をより促すため改正)	◎	
	議案 第121号	令和 6 年度魚沼市国民健康保険特別会計補正予算(第 3 号)		◎		議案 第139号	魚沼市生涯学習センター条例の制定について (生涯学習センターの設置及び管理等に関し必要な事項を定めるもの)	◎	
	議案 第122号	令和 6 年度魚沼市介護保険特別会計補正予算(第 2 号)		◎		議案 第140号	魚沼市立図書館条例の一部改正について (生涯学習センターの設置に伴う図書館の名称、位置等についての改正)	◎	
	議案 第123号	令和 6 年度魚沼市後期高齢者医療特別会計補正予算(第 1 号)		◎		議案 第141号	魚沼市市民会館条例の一部改正について (旧堀之内庁舎及び旧広神庁舎を市民会館と位置付け、両施設を名称及び位置を定める別表に加えるもの)	◎	
	議案 第124号	令和 6 年度魚沼市病院事業会計補正予算(第 1 号)		◎		議案 第142号	魚沼市歴史資料館条例の制定について (歴史資料館の設置及び管理等に関し必要な事項を定めるもの)	◎	
	議案 第125号	令和 6 年度魚沼市ガス事業会計補正予算(第 1 号)		◎		そ の 他	議案 第143号	財産の取得について(魚沼市生涯学習センター什器類) (魚沼市生涯学習センターに設置する会議用テーブル、イス等の購入)	◎
	議案 第126号	令和 6 年度魚沼市水道事業会計補正予算(第 1 号)		◎	議案 第144号		指定管理者の指定について (魚沼市守門高齢者センター)	◎	
議案 第127号	令和 6 年度魚沼市下水道事業会計補正予算(第 1 号)		◎	議案 第145号	指定管理者の指定について (国民健康保険魚沼市立小出病院)		◎		
議案 第154号	令和 6 年度魚沼市一般会計補正予算(第 5 号)		◎	議案 第146号	指定管理者の指定について (魚沼市国民健康保険堀之内医療センター)	◎			
条 例	議案 第128号	魚沼市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について (特別職の職員の期末手当の支給月数の改定に準じ、議員の期末手当の支給月数の改定)		○	議案 第147号	指定管理者の指定について (魚沼市国民健康保険守門診療所)	◎		
	議案 第129号	魚沼市特別職の職員の給与及び旅費に関する条例の一部改正について (新潟県の特別職の職員の給与と改定に準じ、特別職の職員の期末手当の支給月数の改定)		○	議案 第148号	指定管理者の指定について (魚沼市国民健康保険入込瀬診療所)	◎		
	議案 第130号	魚沼市職員の給与に関する条例の一部改正について (新潟県人事委員会勧告に準拠して一般職の職員の給与と改定等を行うため、所要の改正)		◎	議案 第149号	指定管理者の指定について (福山峠緑のふるさと広場)	◎		
	議案 第131号	魚沼市職員の寒冷地手当に関する条例の一部改正について (新潟県人事委員会勧告に準拠して職員の寒冷地手当支給月額の改定等を行うもの)		◎	議案 第150号	指定管理者の指定について(寿和温泉)	◎		
	議案 第132号	魚沼市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正について (新潟県人事委員会勧告に準拠して特定任期付職員の給与と改定を行うための改正)		◎	議案 第151号	訴えの提起について(建物収去土地明渡請求) (所有者不存在の建物が残存する市有地の適正管理及び処分を進める上で、建物の収去及び土地の明渡しを求める訴えの提起)	◎		
	議案 第133号	魚沼市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について (一般職の職員の給与と改定に伴い、一般職の職員の給料表を準用する会計年度任用職員の給料表の改定)		◎	議案 第152号	字の変更について(大和沢地区) (大和沢地区で実施している県営土地改良事業における換地処分を行うための字の変更)	◎		
	議案 第134号	魚沼市長期継続契約とする契約を定める条例の一部改正について (長期継続契約を締結することができる契約を見直すための改正)		◎	議案 第153号	字の変更について(和田・横瀬地区) (和田・横瀬地区で実施している県営土地改良事業における換地処分を行うための字の変更)	◎		
	議案 第135号	魚沼市税条例の一部改正について (地方公共団体情報システムの標準化に関する法律の施行に伴い、個人の市民税の普通徴収の納期及び固定資産税の納期の変更、地方税法等の改正によるずれが生じた引用条項の改正)		◎	議案 第155号	調停を成立させることの追認について (議会議決を経ずに調停を成立させたため追認を得るもの)	◎		
	議案 第136号	魚沼市ふるさと回帰育英基金条例の一部改正について (ふるさと回帰育英奨学金の制度を見直すことに伴う改正)		◎	人事 第 2 号	同意 副市長の選任について (井口新田 櫻井 雅人氏)	◎		
	議案 第137号	魚沼市保育園条例の一部改正について (ひがし保育園の廃止に伴い同園を名称及び位置を定める別表から削るもの)		◎	選挙 第 1 号	選挙 魚沼市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙について	◎		
				請願 第 2 号	「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書の採択を求める請願書	◎			
				議員 第 5 号	発議 北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書の提出について	◎			

議案賛否の状況

替否が分かれた上表の網かけの議案等について掲載

○＝賛成 ●＝反対 △＝棄権 欠＝欠席 一＝除斥 ※＝議長は議決に加わりません。

[illegible]

一般質問 (通告順)



浅井 宏昭

内田市長2期目の市政運営について問う



12月よりスタートした内田市長の市政運営について問う。

問 6町村合併以来、まちづくりのため地方債として合併特例債が大きな役割を果たしてきたが、今年度で終了する。次年度以降に向け、財源確保に取り組むべきことは何か。

答 引き続き、過疎対策事業債や緊急防災減災事業債など、地方交付税措置が有利な地方債を最大限に活用する。国県補助金等の対象事業メニューについて、調査研究を進め、特定財源の確保に努める。また、実施事業の見直しによる事業費の削減、DXの推進等による業務の効率化など行政運営の効率化に向けた取組を進めたい。

問 内田市政は全ての市民が平等に生活できるまちを実現できるか。

答 自動車がない方でも、買い物や通院に支障をきたさないよう交通事業者と連携し、公共交通網の整備を行う。住む地域によってなるべく格差が出ないように努める。

問 生活における移動手段については、入広瀬地域の住民もまちな場の住民と同等の生活を送れるよう、実現に向け検討を進めることができるか。

答 市全体の公共交通は、不便がないよう検討している。入広瀬地域は、小出地域へ直通の乗合タクシーなどがない状況は承知している。JRや路線バスとの役割分担を考えると、乗客数の減少と共に、少ない乗客を取り合うことになる。いずれも持続不可能になることが一番避けたいことで、様々な事情があり最適な答えが出ていない状況である。

移動投票所の必要性について

問 移動投票所の導入は、令和元年から必要性を訴えている。高齢化と過疎化の進む魚沼市でも取り組むべき案件と断言できるがどうか。

答 来年執行予定の市議会議員選挙及び参議院議員選挙に向け、タクシーによる移動支援と移動期日前投票所の設置により、移動が困難な高齢者等が投票しやすい環境づくりを検討したい。



佐藤 敏雄

「魚沼市の高齢者福祉対策」について問う



私が高齢者対策で一番大切に思っていることは、「健康寿命の延伸」である。寿命が延びても、健康上に問題があつては、自分らしい生活ができないばかりか、医療や介護の負担が掛かる。そのため、「ピンピンコロリ」が目標である。しかし、高齢化が進展し、自立できない方も多くいる中で、介護老人福祉施設を増床し、待機者の解消の方向に向かっている。

問 施設ができて、介護や看護の人材不足が大きな問題となつているが、対策はどうか。

答 事業者への人材確保支援として資格取得や奨学金返還支援、介護ロボットやDX推進の導入支援、外国人雇用に向けた住宅確保等支援、夜勤手当補助制度などを設計している。

問 人材不足解消のため外国人労働者を雇用するための方策はどうか。

答 雇用する企業に対し、日本語

学校・介護職養成学校への奨学金補助や、受入れ・住宅経費支援制度などを設計している。

問 地元で働く新卒者に「奨学金制度」の新設拡充策や、介護職の魅力度アップ策が必要と考えるがどうか。

答 既に奨学金の償還補助を実施しているほか、地元で働くことを条件に返還が免除される県社協の貸付制度等もありPRしていく。また、「介護職魅力アップ隊」の取組として中学校等への紹介や介護体験等も行うなど、若い方々に対するアピールを進めていく。

問 米などの食料品、電気代などの大幅な物価高騰が、価格に転嫁できず事業運営を大きく圧迫しており、支援策が必要と思うがどうか。

答 全国的な問題であり、国の補正予算など見ながら、市全体の課題として支援の在り方を考えていく。



星 直樹

オールシーズンジャンプの今後について問う



昭和62年、当時の地元関係者の要望により小出オールシーズンジャンプが完成した。

一年を通して使用できるK点50m級のスモールヒルのスキージャンプ競技用の台となっている。

問 施設の老朽化が進行しており、適切な維持管理が求められている。年間の維持管理費はいくらか。

答 小出公園の公園施設として指定管理者のNPO法人スノーパーク小出が管理している。維持管理費は、設備補修・消耗品等に約15万円、施設利用時の散水に係る水道料金が約10万円、清掃・草刈りが約40万円で、合計65万円程度となる。

問 魚沼市にとって必要な施設だと私は捉えているが、今後の考えはどうか。

答 老朽化が進み、現在は最低限

の維持管理、維持補修にとどめている。市内の競技人数が少なく、今後大規模改修工事は、慎重に検討する必要がある。また、選手の段階に応じジャンプ台の規模も変わるため、競技団体や他自治体の関係者の意向を確認し、検討する。

問 将来を担う選手が、安全に安心してトレーニングできる施設環境整備を進め、子どもたちが魚沼でスポーツを楽しめる環境を作るべきではないか。今現在あるスポーツ施設は修繕し、維持していくべきだと私は考えるが見解を問う。

答 頑張る子どもたちを応援したいし、その子たちがケガをしないようにすることは当然であり、そのための修繕や備品の入替はやっている。しかし、全面的な大規模改修となると費用もかかるので、ジャンプ台を有する他自治体の首長や関係者等の意向を確認し検討したい。



遠藤 徳一

魚沼市立地適正化計画の重要性を市民に周知すべきだ



魚沼市は、平成20年3月に策定した都市計画マスタープランに基づき「魚沼市版コンパクトシティ」に向け取り組んできた。まち中の空洞化という昨今の課題に阻まれ進んでいない状況にある。国では平成26年に都市再生特別措置法が改正され、魚沼市も平成29年（令和3年）防災指針追加に立地適正化計画を策定し「魚沼市版コンパクトシティ」の実現に向け邁進中である。市は立地適正化計画の重要性について再度説明会等展開し今後の人口減少社会に立ち向かう姿勢を明確に打ち出すべきと考える。

プランの改定作業中であり、その過程で地域説明会も予定している。立地適正化計画と都市計画マスタープランは、相互に関連を持たせた計画であり地域説明会では、立地適正化計画の重要性等も説明し周知を図っていく。

移住政策を市の重要政策と明確に掲げないか

問 魚沼市は明確に移住政策を重要課題として掲げて発信していない。先人の移住者のネットワーク化も含め、重要政策と銘打ち取り組む必要があると思うがどうか。これまでの総合計画で移住政策、あるいは実施計画として打ち出すべきだがどうか。

答 現在、第三次魚沼市総合計画の策定に着手し、移住定住を含めた人への投資は重要課題としてこれからも取り組まなければならないと考える。議会からの提言書も参考に重点施策の内容について、検討を深めていきたい。

問 公共交通の利用率や利便性を高めるには立地適正化計画による拠点形成が重要と考える。空き家等の利活用も含め拠点形成地への人口誘導の必要性を市民に周知し合意形成を求めないか。

答 立地適正化計画は、時間をかけながら緩やかに居住や都市機能の適正立地を誘導していく制度である。現在、魚沼市都市計画マスター

一般質問 (通告順)



大桃 俊彦

カーボンニュートラル
実現に向けて

地球温暖化が進み、このままでは人類・食料・生態系などに最悪な状態を招き、滅亡の一途をたどってしまう。温室効果ガス排出削減の対策強化に、世界も本気で取組を強化する。市も、何をすべきか明確に打ち出し、カーボンニュートラル実現に向け官民一体となり取り組むべきだ。

問 カーボンニュートラル実現に向け現在取り組んでいる内容は何か。

答 市民・事業者が再生可能エネルギー、生ごみ処理機、省エネ家電等の設備導入や雪国型ZEH等の導入に際し、補助金を交付している。

問 11月の議員研修で「エネルギーミックスとカーボンニュートラルの両立に向けた取組み」をテーマとして行政からも参加があったが、どのように受け止め、今後の参考になったか。

答 COP28 (国連気候変動枠組条約第28回締結国会議) での議論が

参考になった。市の役割は、徹底した省エネルギーの取組を進めることが重要だと再認識した。

問 ゼロカーボンシティ宣言を6月に行うとしたが、内容の準備不足等で先送りとした。半年以上が過ぎたが宣言をするのかしないのか。

答 市内外へのPR効果も考え、適切なタイミングで宣言したい。

小出郷福祉センター跡地利用について

問 一等地であり、市民・若者に幅広く活用される総合的な体育館施設等の検討はしないのか。駐車場にしておくのはもったいないと思わないか。

答 魚沼市総合体育館の駐車場不足の解消及び災害時の避難場所として活用できるよう跡地全体を駐車場及び一部緑地帯として造成する。魚沼市総合体育館や堀之内体育館を利用願いたい。



関矢 孝夫

人口減少対策について
問う

問 県人口移動調査「市区町村別人口動態」をみると、年間の社会減数は3月が約50%を占めている。

市内の年次別では15歳から24歳までの社会動態は何人か。

答 令和3年が192人減、令和4年が114人減、令和5年が104人の減である。

問 一般の市民アンケートで、若年層の定住意向が低い結果が出ている。市長は若者が魚沼市から離れることについてどのように考えるか。

答 若い方は、都会や便利な場所への憧れと進学があると思う。それよりも強い郷土愛を育てたい。

問 若者定住促進の課題解決に向け、市長はどのように考えているか。

答 働く場所、住まい、そして結

婚、その後の子育てにおける経済的な不安を軽減できる取組を継続し、その他休日等の余暇活動の充実を感じられるような取組が必要と考える。

問 市長は2期目に、若者が魚沼に住む定住策について何か新しいことを考えているか。

答 高校生がどういう考えをもっているか、魚沼市で働きたいかを調べ、若者が魚沼市に勤める。魚沼市に住みながら勤める所を見つけることに予算も含め進めていきたい。

問 若者の定住と人口を増やすため、当市に残って仕事をする高校生等に奨励金を出す制度を考えないか。

答 まずは奨励金の目的をはっきりさせたうえで、他の制度とのすり合わせを行いながら、目標が達成できるようにしていきたい。

問 建設労働者について国において、将来にわたる公共工事の品質確保とその中長期的な担い手の育成・確保を基本理念とした法整備を実施し、労働者の確保及び離職防止が図られるよう、週休2日への取組や労働環境の改善に向けた対応等に努めている。本年4月から建設業にも時間外労働の上限規制の適用が開始さ

問 魚沼市は山や川に囲まれ、冬の雪と自然界の厳しい生活が余儀なくされている当市にとって建設業はなくてはならないものである。公契約条例は①事業者にとっては過当競争、不当なダンピングが排除できること。②労働者にとっては賃金の切り下げに歯止めがかかることであり、生活の安定に寄与すること。③自治体にとっては、公共サービスの質の確保、安全の確保が図られること。さらに、企業の経営安定と賃金所得の確保による税収の確保が図られることである。公契約条例の制定を図るべきではないか。

答 建設労働者について国において、将来にわたる公共工事の品質確保とその中長期的な担い手の育成・確保を基本理念とした法整備を実施し、労働者の確保及び離職防止が図られるよう、週休2日への取組や労働環境の改善に向けた対応等に努めている。本年4月から建設業にも時間外労働の上限規制の適用が開始さ

れたことに加え、これまでの働き方改革の取組もあり、建設業界の労働環境は大きく改善されつつあるものと考え。本市においても、このような施策に準じて対応し、引き続き建設業で働く方の処遇改善に向けた環境整備に努めていく考えであることから、現在のところ、公契約条例の制定は考えていない。

障がいがある人への災害支援について

問 市は、障がいがある人に配慮した防災意識の高揚を図る必要がある。対応はどのように行われているか。

答 障がい者に対する支援方法を学ぶ研修会を開催している。また、総合防災訓練では、障がい者から参加いただき、避難所における課題の掘り起こしを行っている。

※その他、「道路の除雪体制について」質問しました。

問 合併特例債が令和6年度に終了し、過疎債も縮小されてくる。今まで認められた有利な財源は確実に減少する。新たな施策に充てる自主財源確保が喫緊の課題である。

1 ふるさと寄付金の収納予想はどうか。

2 受益者負担、補助金交付の見直しはどうか。

3 恒久的な財源確保のために、先行投資で市の付加価値を高め、官民で新たな事業展開を進めてはどうか。

答 1 11月末時点の暫定値が約24億円で、前年同期比40%増となる見込みである。

2 市民負担の公平性を保つため、公の施設利用者からは、その対価を使用料として、市が特定の人にする事務は、その経費を手数料として、それぞれ受益者から負担いただく。慢性的な支出にならないよう、補助金効果の検証を十分に行う。また、関係団体等と協議・調整し、事業の達成目標とする指標水準と補助期間を明確化し、認識を共有する。

3 人口減少対策と産業振興策による市税の増加が欠かせないと考える。そのため、議員提案の現有資産を活用し、新たな事業展開や観光地、



高野甲子雄

公契約条例の制定を図れ



佐藤 肇

市の自主財源確保策を問う



特産品をさらに磨き上げ、付加価値を高める研究も必要である。

防災拠点の整備内容を問う

問 消防庁舎の隣接地にヘリポートを備えた防災拠点整備が決まった。1 当該敷地の全面舗装と消雪設備は考えているのか。

2 ヘリコプターの給油施設も必要でないか。

3 消防団の水出しポンプ操法訓練ができる常設訓練場が必要である。ナイター設備や給水所、トイレの整備はあるのか。

答 1 全面舗装で、消融雪設備は、ヘリコプターの離着陸部分の範囲に消雪パイプを敷設する計画である。

2 県から依頼があった場合に、燃料を提供できるよう配備しており、新たな給油施設は計画に含めていない。

3 訓練場等の整備は、計画している。ナイター設備は、バルーン投光器等の簡易的なものを考えている。給水設備は計画していないが、トイレは緊急消援助隊等の応援を受ける際の課題であり、マンホールトイレの設置を含め検討する。

一般質問 (通告順)



星野みゆき

学校教育の充実について問う



問 教員の負担軽減や授業の向上を目指すため、チーム担任制を導入してはどうか。

答 教育委員会としても注目しているところである。市内小中学校の校長を集めた会議において、学年担任制の導入を検討するよう提案したところである。

問 教員の力になりたいと考える保護者や地域の方が多くいるが、学年の見守り支援を充実できないか。

答 コミュニティスクール制度の取組の中で、保護者や地域の方が各学校の教育支援に入るとは歓迎すべきことであり、地域と共にある学校の一つの姿であると考えている。

問 「学校支援ボランティア人材バンク」を設置し、市内全体で必要な人

材を派遣する仕組みはつくれないか。

答 以前人材バンクに取り組んだが、多くの課題があり十分に活用できなかった経緯がある。現在は、地域コーディネーターが人材バンクのような役割を担いつつある。

魚沼市の情報発信について

問 子育て日本一を目指している魚沼市の認知度を上げることが課題である。どのように発信していくのか。

答 ホームページやSNSでの発信のほか、子育て支援内容を記載したチラシを配布している。このチラシを市民一人ひとりから見てもらい、行政と市民が一体となって情報発信をしていくことが大事だと考える。このような地道な広報活動を継続的に行っていく。



佐藤 達雄

会計年度任用職員の処遇改善について問う



問 会計年度任用職員の職種は多様であり、業務の継続性が大事だ。国は6月に制度見直しを行い、再度の任用を行う限度回数を削除した。魚沼市も規則見直しを行い、5年ごとの公募をなくし安心して働き続けられるようにすることはできないか。

答 国の取扱いに準じて、再度の任用の限度回数を撤廃する内容で、関係規則を改正する。

問 魚沼市の会計年度任用職員は全職員に占める割合が50%を超え、全国市町村平均より高い。正規職員の割合を増やすことはできないか。

答 現在、そのような考えはない。

温水プール建設に向けた検討会の設置を

問 市内調査によれば、保護者が子どもたちに習わせたいスポーツの第1位は水泳だ。しかし、温暖化で熱中症を懸念し水泳授業が激減している。温水プール建設を願う署名は9,213筆が寄せられており、市内に拠点プールをつくる社会的要請

が大いに高まっていると考えるがどうか。

答 一定程度のプール建設を願う声があることは認識しているが、社会的要請が大いに高まっているとは考えていない。

問 多くの保護者の子どもに水泳を習わせたいという思いは、声なき声と捉えることができるのではないか。

答 今やらなければならないことが目の前に山積しており、現在は温水プールをつくる計画はない。

訪問介護事業者への支援強化を

問 訪問介護事業者が減少した中で、事業経営の厳しさが続いている。希望する人全てが自宅での介護を受けられるよう、支援を強めることはできないか。

答 訪問介護部門に限らず、資格取得支援をはじめ、人材確保に係る支援を重点的に取り組んでいる。資格取得により、事業所全体の加算や処遇改善加算につながっていく。

一般質問 (通告順)

答 部活動の地域移行を進め、少子化の中でも実現できる仕組みを構

問 「確かな学力」の育成の他に個性を発揮し、主体的・創造的に生き、未来を切り拓くたくましい人間の育成のため文化活動や体力向上のスポーツなど、学力以外で子どもたちの可能性を大きくする取組はどうか。

答 教員対象の研修等による授業力アップとあたたかい学級づくりを核とした支援その他を継続する。学級集団の状況を客観的に分析するQ U調査も継続する。

問 評価に基づく学力向上の取組とその環境整備をどう進めるか。

答 学力は全国平均より下回っており差が開いた。教科ごとに理解度が異なっている。家庭での学習の習慣づけが弱いとの結果となった。

問 小学6年生、中学3年生対象の「全国学力・学習状況調査」の当市の結果とその評価はどうか。



富永三千敏

学力向上と労働機会創出について問う



築する。コミュニティスクールや地域活動により子どもの自己有用感を高める。学力向上は最重要課題であり、学校・家庭・地域が連携し、子どもの生きる力を育てる。

市民の労働機会創出について

問 働く場所づくりも自治体の取り組むべき重要な課題である。一時的・短期的に求人したい事業所、固定労働のできない子育てや介護をしている人の中には機会があれば短時間でも働きたいと思う求職者も多い。市が民間の求人・求職サイトと連携し、市民の労働機会を創出することを検討し実行しないか。

答 市だけでなく地域全体で考えるべき課題であり、ハローワーク・魚沼ものづくり振興協議会などと連携して合同企業説明会を開催しており一定の効果が出ている。提案の取組は近隣自治体でも実施し効果はあるようだ。実施するかどうかは研究する必要があると思う。



桑原 郁夫

「子育て日本一」について問う



問 内田市長は子育てで日本一を目指すと言っているが、そのための会合を実施しているか。

答 そのことに特化した会合は開催していないが、4年間で移動市長室や語らん会を46回開催し、670人と対話した。そこに、住みやすいまち日本一を目指し、市の事業や取組が書いてある7種類のチラシを持参した。参加者には、その時に応じたチラシの内容を説明し、その中で子育てに特化した話合いをした。

問 話合いの中で、子育てについて印象に残っていることは何か。

答 子育てに関する市の施策を知らない人が多くいた。たくさんの人に知ってもらうことが大事である。

問 私が考える理想の子育ては、子育てしている人が愉しいと思うことである。市長が言うように「オール魚沼」で考え、児童民生委員、PTA役員、見守り隊の成り手がいないということがなくなることである。話合いの結果、市長が考える「理

想の子育て日本一」の出口はどこか。

答 出生数が増えることで地域が活性化し、市の未来に希望が持てるようになることである。

問 ふるさと納税の「魚沼ふるさと応援住民カード」のように「魚沼子育て応援カード」を0歳から10歳まで期間限定で発行したらどうか。

答 子育ては、いろいろな施策があるため、今現在は考えていない。

問 すこやか子育て応援給付金で第一子に10万円、第二子に15万円、第三子以降も支給と、手厚い支援はある。応援カードであれば市内の商店を活用し、地域の経済にもつながる。子育て中は、近くで買物するほうが負担もなく良いと思うがどうか。

答 他県では子育て中の方が、レストランやお店に入ると割引になる制度がある。魚沼市だけでなく全県で対応したほうが広範囲に使えるため知事に提案したり、登録店については検討させてほしい。

一般質問 (通告順)



横山 正樹

不登校児童生徒の自立に向けた具体策について問う



全国的に不登校児童生徒が増加し、魚沼市でも原因を探ったり相談活動や訪問活動等を行ったり策を講じている。子どもたちの将来の自立に向けた具体策について問う。

問 令和5年度不登校児童生徒数、令和6年度現在の実態はどうか。

答 令和5年度が、小学生20人、中学生53人、令和6年度11月末現在で小学生14人、中学生41人である。

問 令和6年度適応指導教室への希望数と実態はどうか。

答 11月末時点で、小学生11人、中学生24人の計35人である。ほとんどが学校への登校と併用し、心身の状態で自分に合った学びの場、居場所を選択している。

問 適応指導教室充実のための人員増や拡充の必要性はどうか。

答 昨年度と本年度に増員し、8人体制で行っているほか、中学校4校と小学校1校にある校内教育支援センターにも支援員を配置し、多様な学びの場を確保している。

問 フリースクール設立の動きと市外フリースクールへの支援策はどうか。

答 市内は、現時点で把握していない。市外への支援は、フリースクールへの登校を学校の出席とみなし、学びの場の確保と学ぶ意欲への支援を行っている。

安心安全な通学路の確保について

一緒に登下校する児童生徒が減少し、交通事故・不審者・熱中症等の観点から状況にに応じ通学路やスクールバス運行の見直しが必要と考える。

問 学校や地域の実態を調査し、安全・安心な通学路の見直しの検討は行っているか。

答 来春から小学生は、スクールバス運行計画の見直しを検討している。小学生の乗車範囲を広げてから中学生の検討を進める。

問 中学生議会での「冬季の安全な通学路確保について」をこの冬から実現できないか。

答 まずは、歩道除雪の実施と要望を各道路管理者に伝え、実施できるようにしたい。そのうえで、中学生の冬季スクールバスの乗車基準である3kmを検討したい。中学校全体の基準の見直しが必要であるため今冬の実施は難しい。



本田 篤

※1
コホート研究の超長期的な実施をすべくについて問う



問 魚沼コホート研究では、魚沼圏域は胃がん、大腸がんの死亡比が低く、また、自殺率は高いとされているが、行政としての受け止めはどうか。

答 胃がん、大腸がんの死亡比が低いことは、がん検診受診率向上の取組や、精密検査対象者の受診勧奨など、がん対策事業の継続的な実施による成果と受け止めている。自殺率は、様々なデータから高いことを認知し、取り組むべき優先順位が高い健康課題と受け止め、今後も予防に努めていく。

魚沼地域に特有の疾病について

問 ツツガムシ病、アルコール摂取と健康、魚沼の天候と季節性うつ病など、魚沼地域特有の疾病及び健康阻害因子はあると受け止めているか。

答 魚沼市は、全国と比較して、男女ともに毎日飲酒の割合が高いことが明らかにしている。魚沼市における医療費支出の割合は、糖尿病が県より高く、特定健診結果からも糖尿病に係る値が基準値以上と判定された人の割合が、県や国と比較して高くなっている。このため、地域性による疾病と健康阻害因子は、関連性があると受け止めている。

※2
カスタマーハラスメント(カスハラ)について

問 市におけるカスハラの被害実態はあるか。

答 近年は、窓口で大声を出された等の報告はあるが、カスハラに限った調査をしていないため、詳細は確認していない。

問 当市でのカスハラ対応と対策はあるか。

答 主な原因は、職員の説明が明確に相手に伝わらない場合や、丁寧でない場合が考えられる。市民に寄り添い、わかりやすい丁寧な説明に努めるよう職員に対して指示している。対策のひとつとしてカスハラを市民に認識してもらうため、窓口等へのポスター掲示が考えられる。

※1 コホート研究

健康状態と生活習慣、環境や体質の状態などの関係について、長期にわたり詳しく調査することで、病気の原因を探る研究のこと。

※2 カスタマーハラスメント

顧客が企業等に対して理不尽なクレーム・言動をすること。



渡辺 一美

市民の所得向上に向け た市の責任について問う



市民の所得向上のために公契約条例を制定せよ

問 公契約条例は、市が発注する業務委託や指定管理協定を契約締結

できる事業者の選定条件に雇用される労働者の給与水準に一定の条件を付し、最低賃金などで雇われることがないようにすることで、市民の所得向上に市が責任を負うことができる条例である。既に制定している自治体では、対象となる契約を、工事等請負契約、業務委託契約、指定管理協定等とし、対象となる労働者を、受注者である企業に直接雇用されている者、下請業者に雇用されている者、労働者派遣法の規定により業務に派遣されている者及び請負契約により業務に従事する一人親方として、また、賃金の下限については、公的機関が定める労務単価の基準、自治体職員給与額等を勘案して、市

長等が定めるとし、審議会等の設置を規定している条例が多い。当市も市民の所得向上のために、賃金条項を有する公契約条例を制定すべきと考えるがどうか。

答 市の公共事業における契約

は、契約の目的物または役務について、取引の実例価格、需給の状況、履行の難易、数量の多寡、履行期間の長短等を考慮し、各種法令を遵守し予定価格を定めている。最低賃金法での地域別最低賃金は、労働条件の改善を図り、事業の公正な競争の確保に資すること等を目的に、地域の経済状況等を踏まえつつ、全国的に整合性のある額を設定するものである。今後も引き続き、働く方の処遇改善と公正な競争の確保に努めていく考えであることから、現在のところ、公契約条例の制定は考えていない。



大平 恭児

高校生向け小出駅から のバスの整備を



公共交通について

問 夕方、小出駅は主に高校生の

迎えに、毎日多くの送迎車がきている。保護者や家族にとっては負担になっていると思うが、帰りの時間に配慮したバスの運行を整備するべきではないか。

答 小出駅発着の路線は、あらゆる状況を考慮しダイヤ改正に合わせ、常に効率的な運行となるようバス事業者と協議を行っている。

問 公共交通網整備の一環として、スクールバスを一般住民も利用できるようにすることや、空いている時間帯の活用を推進していくべきではないか。

答 運行目的と運賃徴収の面で解決が難しい課題が生じることや、「緑ナンバー」車両による輸送事業でなければならぬなど極めて困難であると考えます。

問 魚沼基幹病院へ通院をするこ

とに不便を感じている住民の声を多く聞く。路線バスの増便を行っているが、加えてAIオンデマンドタクシーの導入にあたり、魚沼基幹病院への運行ルートを検討してはどうか。

答 AIオンデマンドタクシーの導入は、実証運行でスタートし、利便性向上を目的とした効果・検証を行ったうえで、その後の展開を検討する。実証運行の段階では、魚沼基幹病院への接続は考えていない。

少子化対策について

問 小中学校の副教材費や給食費、部活動費などの教育費負担軽減を行う考えはないか。

答 学用品費等の援助のほか、今年度は、オンライン学習通信費やクラブ活動費を就学援助対象費目に加え、生活困窮世帯に対し支援を拡充した。学校給食費は、物価高騰分を市が負担し保護者負担の抑制を図っている。

Voice

聞かせて！あなたの声

魚沼産☆ 夢ひかり × 市議会

地域で活躍する皆さんと、ざっくばらんに語り合うコーナーです。

第20回目は、魚沼産☆夢ひかりの皆さんからお話を伺いました。



設立とグループ紹介

2006年に中越地震を機に、子どもたち自身と周りの人々を元気にしたいと、魚沼市でキッズミュージカル劇団「魚沼産☆夢ひかり」が誕生。今回の取材時は2日間で英語ミュージカルワークショップが行われていて「ライオンキング」を演じていた。キャストメンバーは現在約40名、魚沼市響きの森文化会館大ホールで春と秋の年2回公演や市内外のイベントに参加している。また、東京公演の実績もある。



小、中、高、大学生キャストへのインタビュー

メンバーの子どもたち

小学生から社会人OGへのインタビュー

「ここでしか学べないことがたくさんある」、「小学生から入り、その達成感がすごい」、「将来、大きな舞台に立ちたい」、「経験を生かして保育士になりたい」、「舞台に立つ子どもたちを支えたい」など、積極的に取り組み将来のことも考え、劇団での活動を楽しんでいる様子うかがえた。

今後と課題

ずっと行われていた東京公演がコロナ禍から途絶えているので、魚沼市と提携している都市を中心に市外での公演を再開したい。また、発足当時から魚沼市響きの森文化会館を利用してもらい感謝している。今後は定期的な練習や道具・備品を保管するための拠点

を持ちたい。そのため多くの方々にイベントだけでなく夢ひかりの舞台を是非見に来て応援をしてもらいファンを増やしたいとのことだった。

市議会に一言

「夢ひかり」の名前は知っているが活動や中身を知らない人もまだまだ多くいるため、是非公演を見に来てほしい。

市議から一言

わずか2日間の練習後の発表、英語のミュージカルを見せていただいた。小学生から大人まで英語が非常に上手でその対応力や表現力にものすごく感動した。引き続き頑張ってほしい。



令和6年度 中学生議会を開催しました 中学生の視点で 市政に提言

11月14日に本庁舎議場にて、中学生議会が開催されました。市内各中学校3年生の代表12人が議員となり、10人が一般質問に登壇しました。中学生議会は、中学生が地方自治について学習する中で、市政や市議会をより身近に感じてもらい、政治への関心を高めることを目的に開催しており、今年で8回目となります。生徒の皆さんは、7月に行った事前授業を通じて夏休みから準備を始め、議会に臨みました。当日は、中学生ならではの視点で、魚沼市をより良くするための提言を市長や教育長に対して堂々と述べました。この体験が、郷土愛の醸成につながることを期待します。

冬の期間の除雪について



魚沼北中学校
坂牧 陽斗 議員
さかまき はると

問

私たちの生活する須川や大倉沢、三沢沢は、歩道の除雪がされていないことが多い、小学生も徒歩で登下校しており、車道を歩くことは車が近くを走るため、とても危険である。小・中学生の登下校時の安全を確保するために歩道の除雪を毎日してほしい。

答

道路には国管理の国道、県管理の市道があり、各道路管理者が機械除雪の出動基準を設定している。市は、車道及び歩道の積雪10cmで1日2回を限度に行い、県管理の歩道は、積雪20cmで行っている。歩道除雪は、除雪機械を増やし対応してきたが、想定を超える異常降雪に追いつかないのが現状であり、費用面や人員確保など課題が多い。市は、費用面の支援や制度の充実を県に要望したり、除雪業者への支援を進めることで、冬期間の通学路の安全確保を図っていく。なお、歩道除雪が全く行われていない通学路がある場合は、学校を通じ市へ連絡をお願いする。

AIの活用について



広神中学校
高橋咲太郎 議員
たかはし さくらう

問

今年度、電車を利用する機会があったが、無人駅が多いと感じた。また、夏休みの課題で市への要望や課題を調査した際、高齢者を中心に、無人駅で不便を感じている意見があった。AIを活用することで、高齢化や人口減少が進む中で様々な対応ができるのではないかと。市では、AIの活用をどのように考え、今後AIを活用した計画はあるか。

答

市では、様々な分野でAIの活用を検討し、既に一部の業務で手書きの申請書を自動でデータ化するなどの取組を進めている。今後の考え方は、市民生活の利便性と快適性を高め、業務の省力化を目指し、議員提案の内容も参考に、多方面へのAI導入を積極的に検討していく。AIを活用した計画は、AIに限った内容ではないが、既に社会生活全般のデジタル化を推進する計画として「DX（デジタルトランスフォーメーション）推進方針」を策定し包括的に推進することとしている。今後市民生活を支えるための新たな技術の活用を検討していく。

観光立地を見据えた消雪パイプの改良について



湯之谷中学校
井口 桃杏 議員
いぐち ももあ

問

①消雪パイプの点検や工事を今より重点的にを行い、冬場の歩行者通行の利便性を確保してほしい。

②観光立地の観点からも、道路のくぼみや盛り上がりを補修し消雪水の流路を確保し、水たまりや水はねを解消していくべきだ。

答

①消雪パイプの経年劣化により水の出が悪い箇所や、場所によっては地下水が少なく、降雪が続くと井戸が枯れ、水が出なくなる箇所もある。老朽施設の改修には、多大な費用が必要となるため、国の交付金等を活用して更新を進めている。

②安全な交通環境を確保するため、道路改良工事等を行っているが、今後も国県の補助制度を有効に活用しながら、観光立地の観点も含め安全確保を進めていく。



小出中学校
こばやし ちはる
小林 千晴 議員

除雪作業の支援について

問

市が中心となりアーケードなどの危険な場所での除雪作業ボランティアを行うしてほしい。

①現在、市でそのような取組はあるか。また、今後そのような取組を行う計画はあるか。

②移住したばかりで除雪作業に慣れていない人々への支援は行われているか。

答

①高齢者世帯などに対する除雪作業料の負担支援、屋根除雪作業中の転落防止設備の設置費助成など、除雪作業に係る費用負担の軽減や安全対策を行っている。今後は、財政負担の軽減や、人手の確保が厳しくなる状況を踏まえ、地域における「支え合い」、「助け合い」の作業が重要になってくる。しかし、「危険な場所」での作業を専門業者以外の人に実施してもらうこと自体が、難しいと考える。

②移住を考える人からは、除雪作業に慣れてもらう前に、雪のあることが当たり前である冬の生活を知ってもらい、克雪・利雪も含めて「雪に親しむ」ことが重要である。



堀之内中学校
いそべ かなめ
磯部 希夢 議員

魚沼市の交流人口増加のための取組について

問

地域活性のためには、交流人口を増やすことが必要と考える。今年度、「ライダー割」や「魚沼BQもつ焼き大会」、「まんぷく魚沼定食」など様々な取組が行われ、「魚沼BQもつ焼き大会」は報道機関でも紹介された。今後、交流人口を増やすためにどのような取組を検討しているか。

答

今年、市制施行20周年や魚沼インターチェンジの誕生に合わせ様々な記念イベントを実施しているほか、首都圏などに出向き魚沼市を全国に向けてPRするなどのトップセールスを行っている。今後の取組については、全国の人から見て魚沼市は「コシヒカリ」の印象が強いとする特徴を生かし、「食」を中心とした企画をはじめ、魚沼市固有の観光資源である枝折峠の滝雲や大白川の雪流れなどと特産品や飲食を組み合わせた観光誘客策などの取組を推進したい。



魚沼北中学校
えのもと しゅうや
榎本 修也 議員

冬のスクールバスの運行について

問

私たちの住む守門・入広瀬地域は雪の多い地域である。冬の間、雪で歩道が埋まるなど危険なため、小学生は通学距離が2km以上の生徒がスクールバスに乘れている。しかし、中学生は3km以上が対象のため、2〜3km未満の生徒はバスに乗ることができない。中学校のスクールバスの冬の運行基準を小学校と揃えてほしい。

答

小学生と中学生では体力面において差があることから、必ずしも同じ運行基準である必要はないと考える。冬期は、夏期と比べ歩きづらい箇所もあるが、他の地域の児童生徒も同様の状況で通学しているため、理解をお願いしたい。ただし、近年は気候変動による猛暑、児童生徒数の減少、クマ等の出没、スクールバスの距離基準や公共交通との併用など課題も多いことから、運行の仕方について検討を進める計画である。



広神中学校
やまもと かえで
山本 楓 議員

市町村合併について

問

人口を増やし人員や施設を削減し費用を減らすため、南魚沼市との合併はどうか。

隣接する自治体であり、ともに米をブランドとしており、魚野川沿いで、雪が多く降るという共通する地域性もある。南魚沼市との合併について市の考えを聞きたい。

また、市内には体育施設や庁舎など複数あり維持費や人件費がムダにかかっている。重複する施設の維持費について、今後施設の統合も含め考えていることがあれば教えてほしい。

答

自治体同士の合併は、行政効率化の問題以上に、市民の間で機運が高まることが重要である。今のところいずれの自治体とも合併する状況にない。隣接する自治体の施設と重複する施設等は、それぞれの特色を生かし、相互利用ができるように調整を進め、利用が低迷する施設については、今後、廃止・統合や共同設置などの手法を検討する必要がある。

魚沼コシヒカリの付加価値
の一層の向上と若手営農者
への支援の充実について



湯之谷中学校
星 日那太 議員

問

①魚沼産コシヒカリの直販サイトの運営や、ふるさと納税の返礼品としての活用など、販売方法を見直すことで、これまで以上のブランド化を図れると思うがどうか。

②魚沼産コシヒカリの知名度を生かし、「食」をPRすることで魚沼への観光を促進し、農業後継者の育成や若手農家の支援事業につなげないか。

答

①ふるさと納税は、寄付者の9割以上が返礼品に魚沼市産コシヒカリを選んでいる。今後ふるさと納税を活用し、農家収入の増加とコシヒカリのブランド力強化、魚沼市産農産物の広告、宣伝などのPRを図る。

②米をはじめ農林畜水産物など全国に自慢できる美味しい物をPRし、魚沼インターを玄関口に観光誘客や交流人口の増加につなげ、市内経済の活性化を図りたい。また、高くても買いたいと思う流れをつくるのが、農業収入の増加につながり、農業後継者の育成や若手農家への支援につながる。

小中高が連携した
地域づくりについて



小出中学校
関 優希 議員

問

少子高齢化、人口流出が加速する中で、未来を担う子どもが積極的に意見を言い、地域づくりに参加することが必要と考える。学校生活でも、小学生や高校生とかかわる機会がほとんどない。より多くの子どもの意見を取り入れ、地域を活性化していくために、小中学校、高校がつながる機会を提供してほしい。

答

市では全ての学校がコミュニティスクールとなっており、各校の学校運営協議会に、小中学生の声を直接聞くような機会を設けてほしいと働きかけていく。そういう場で、地域行事や団体活動と小中学生の声や活動がつながり、高校生からも参加してもらうことで、活動がふくらんでいくと考える。また、高年生をリーダーに地域の未来を小中学生や大人と一緒に、話し合うような機会が持てないか検討したい。

小中学生への支援について



堀之内中学校
豊島 六花 議員

問

①市では英語検定料の補助を行っている。令和5年度、何人を対象に、補助が行われたか。

②医療介護分野の人材確保が課題と聞いている。医療介護職は、大学や専門学校で学ぶ必要があり、小中学生が医療介護の仕事に就けば、そのまま魚沼市に定住すると思われる。そのためにも小中学生の学力向上が必要だと思う。

答

①年間1人2回までの英語検定料を補助している。令和5年度は中学生で延べ185人、小学生で延べ29人の計214人に補助を行った。

②まちの仕事発見塾や職場体験等で学習意欲を高める取組を進めることや、求められる学力の向上に向け、分かる授業、楽しい授業を目指し、先生方の研修の充実を図り、サポートをしていく。子どもたちが将来にわたり地域社会に貢献できる人材となるよう、その育成に取り組んでいく。

樋口教育長からの講評

魚沼市の状況や市の取組を事前によく調べ、高齢者など様々な立場から考えられていて、地域づくりなど自分が行動したからこそ分かる意見もあった。また、若者らしい大胆なアイデアや自らの将来と結んだ意見もあり、魚沼市を大切に思う心が伝わってきた。再質問や再々質問も多く、議論する姿勢や力も伸び大変頼もしく感じた。市の課題は、こうすれば解決できるという絶対的な答えはなく、そのときの状況に応じ合意できた最適解を、様々な考え方を持つ人たちと協働的に粘り強く取り組むことが必要となる。多面的な観点からどのように考えるのか問い続けていく力がこれからますます大事になる。皆さんが進む道において探求し続ける姿勢を持ち、様々な実体験を通し世界を広げてほしい。

緊張感が漂う議場で、
堂々と議事進行をしてくださいました。
議長役を務めたのはこのお二人です。

小出中学校

ごとう りゅうたろう
後藤龍太郎 議長

小出中学校

さくらい きほ
櫻井 季穂 議長



参加いただいた皆さん、
大変お疲れ様でした！

総務委員会報告



11月18日・12月12日に委員会を開催した。

1 審査事件

議案第128号～134号・151号

※原案可決すべきものと決定

2 調査事件

① 魚沼市ケーブルテレビ事業の廃止に伴う加入者の解約手続きの状況（支援金支給状況）について

② 下島地内市貸付土地明け渡し訴訟の提起について

執行部より第4回定例会に提案予定の案件として報告を受けた。質疑等は正式に提案後、委員会において行うこととした。

③ 第6期（後期）総務委員会の課題について

取り組んだ調査状況をまとめ委員に配布し、その内容に基づきまとめ作業に取りかかることとした。

3 その他

① 今泉地内特定空き家に係る事務の進捗状況について

② 魚沼市長期継続とする契約を定める条例の改正に向けた考え方について

問 長期契約とはどれくらいの期間を指すか。また、他自治体で事例はあるか。

答 通常単年度主義制で4月1日以降起案、入札ということになるが、ソフトウェアのライセンス契約等4月1日から業務が行えるよう3月中旬に手続きが必要なものもある。そのためにも長期契約が必要となる。一概に2年、3年と決められるものではなく業務内容による。全ての自治体が長期契約制度を利用して対応しているものと思っている。

③ 建築設計業務の発注に係る地域要件の考え方について

④ 本庁舎協働教員住宅の取り扱いについて

問 PFI手法導入について検討するための予算を計上するという説明だが、活用方法によっては高上がりとなる。総合的な経費はどうか。

答 庁舎が狭く会議室なども不足している。そうした用途に利用できればと考える。維持管理費用について経費をかけないという意味でもPFI手法の可能性を探っていきたい。

⑤ 魚沼市消防団「機能別消防団」の制度概要について

問 現場での活動の際に機能別消防

団員しか集まらないという可能性もある。ポンプ操作の訓練等が必要ではないか。また、大小の班がある中で、一律5名でよいのか。

答 基本的には消防団員経験者となっているが団長の判断で訓練が必要場面も出てくる。一律5名は、団会議で決定している。

⑥ 消防職員の定数について

⑦ 特殊勤務手当について

問 金額を上げていく方向か。

答 緊急援助隊については、今まで災害現場で活動した場合に1件200円の手当がついていたが、国では一日あたり2,000円程度の災害手当となっている。整合性を図りたい。

⑧ 「魚沼市財務規則」一部改正の概要について

問 「災害応急対策等に関する工事における損害は発注者が損害合計額を負担する」とあるが具体的にはどうか。

答 公共的な災害復旧作業中に大雨等による二次災害が発生し、請負者に損害を与えた場合は発注者側である市が損害賠償を行う形となる。

⑨ 入広瀬分室のサービスコーナー化について

⑩ 新ごみ処理施設建設に伴うヘリ

ポートの移転について

⑪ 市民の声を聞く会での意見・要望事項の取り扱いについて

総務委員会あて調査依頼のあった意見について、重要性も含め総務委員会調査検討を行うことで決定した。

⑫ その他

● 越後須原駅舎の活用について

● 今泉地内特定空き家に係る事務の進捗状況について

①～⑫について執行部から説明を受け、質疑を行った。

4 現地調査

● 消防庁舎ヘリポート建設予定地

● 防災備蓄庫

視察後委員会室にて委員から意見感想を発表してもらい、総括とした。



消防庁舎ヘリポート建設予定地
現地調査

福祉文教委員会報告



11月20日・12月13日に委員会を開催した。

1 審査事件

請願第2号

「持続可能な学校の実現をめざす」
実効性ある学校の働き方改革、長時間労働は正に係る意見書の採択を求める請願

問 全国的にはどのような動きになっているのか。

答 全国で取組をしている。小千谷市議会・南魚沼市議会・湯沢町議会・十日町市議会も委員会で採択された。

※賛成多数で採択すべきものと決定

議案第135号

魚沼市税条例について

問 県内自治体や全国的に一斉に実施するのか。

答 県内20市のうち本市と糸魚川市以外は既に4市で行っている。

議案第137号

魚沼市保育園条例の一部改正について

問 ひがし保育園の貴重な資料などの管理は今後どう扱うのか。

答 佐梨保育園に引き継ぐことで進めている。

議案第138号

魚沼市ふるさと回帰育英奨学金貸与条例の一部改正について

問 今回から誰でも借りることができると思うが、人数の見込みはどうか。

答 2倍の10人程度を見込んでいる。

議案第135号・142号・144号・148号

※原案可決すべきものと決定

2 調査事件

① 民生委員・児童委員の地区再編について

次年度の一斉改選に向けて県から113名を109名に減らす提案を受けたが、魚沼市案では111名で検討している。

問 範囲が広がることは、担当範囲が増え、民生委員の負担が増加するがどうか。

答 不在地区を回避することでの提案である。

② A－オンデマンド交通実証運行について

A－オンデマンド交通実証運行の運行計画（案）について、「湯之谷・守門地域における乗合タクシーの利用状況について説明を受けた。

問 稼働率が上がっている中で、財政負担はどうか。

答 当初予算での見込みの稼働率と非常に大きく差が出る財政規模になっている。

③ 第三期魚沼市子ども・子育て支援事業計画（素案）について

④ 小出郷福祉センター等解体撤去工事請負契約の変更について

令和7年2月28日履行期限の契約で実施している。全体の整理を行った結果、30万円ほどの減額となる。

3 その他

① 12月補正関係について（乗合タクシー運行費補助・新ごみ処理施設生活環境影響調査業務委託）

② 定期予防接種の助成範囲拡大等について

③ 守門診療所テナント室について
現時点で、開院に向けた改修と保健所等への手続きをし、開業の予定は1月初旬とのことである。

④ 国民健康保険高額療養費支給漏れについて

⑤ 地域支援事業交付金に係る消費税について

⑥ 魚沼市生涯学習センター什器類購入契約について

⑦ A－オンデマンド交通運行のスケジュールについて

実証運行が2月3日から運行開始

である。アプリを操作しながらの説明会も検討している。

⑧ デイサービスセンターについて

⑨ 小出小学校の状況について

⑩ 市民の声を聞く会での意見・要望事項の取り扱いについて

①～⑩について執行部から説明を受け、質疑を行った。

4 現地調査

●特別養護老人ホーム 美雪園
人手不足、人材確保が一番の課題

であるが、市の取組について、評価する声もあった。外国人人材の受入れも行っており、渡航費用、住宅費等の事業者への財政負担が大きいことを理解した。国の制度的な問題が大きい。我々も検討しながら高齢者福祉のため、制度を改革していかなければならないと感じた。



美雪園現地調査

産業建設委員会報告



11月26日・11月28日・12月16日に委員会を開催した。

1 審査事件

議案第149号

指定管理者の指定について（福山峠緑のふるさと広場）

議案第150号

指定管理者の指定について（寿和温泉）

問 委託契約から指定管理になることによって何が変わるのか。

答 今後は施設の使用料は指定管理者の歳入となる。それを原資として事業展開ができるところが大きく異なるので、その部分（サービス向上）を指定管理者に期待している。

議案第152号

字の変更に付いて（大和沢地区）

議案第153号

字の変更に付いて（和田・横瀬地区）

※原案可決すべきものと決定

2 調査事件

① 令和6年産米の状況について

J A魚沼が検査した魚沼市の生産者分のコシヒカリ1等米比率は、81・5%、2等が16・6%、3等が1・2%、規格外が0・7%である。J A魚沼の魚沼市の1等米の仮渡金は、2万2,500円と報告を受けた。

② 地域計画策定に向けたスケジュール等について

問 農地の集約が進めば進むほど、集落でしていた江ざらい、水の管理、草刈りなどに支障をきたしている。今回の計画の中で、担い手支援だけでなく、地主や地域の方への支援が何か示されているか。

答 今考えている支援は、担い手の立場に立った支援が多いので、地域の農地を守っていくには、地主や地主以外の地域の方々の協力も含め農地を守っていくことが重要と感じている。今後地元の意見等を含め検討課題と考えている。

③ 賃料等請求調停事件（須原スキーマ駐車場賃貸借契約）について
問 相手方から昭和53年に遡っての資料請求や、昭和58年のときの資料請求をされても、国土調査の筆界をもって資料だと解釈するのが一般的である。なぜ、こちらから、それはできないということを言えなかったのか聞かせてほしい。

答 もう少し強く出るべきだったと反省をしている。当時は、何とか解決に向けて当時の資料を探してきたということである。

問 市としてどのような対応を考えているのか。

答 今後は、弁護士や内部で相談し対応したい。

④ にぎわい館（仮称）整備計画（案）について

問 このレイアウトは最終決定ではなく、まだ検討の余地があるということか。

答 現在、1F中央部にエスカレーターがあり、全体を見渡した想定ができないところもある。今回のレイアウトで、エスカレーターを除いてからの不具合や、再度見直しが必要な部分は、検討したい。

3 その他

① 第6期（後期）産業建設委員会の課題について

② 市民の声を聞く会での意見・要望事項の取扱いについて、協議した。

4 行政視察

11月26日 見附市

● 田んぼダムについて

● 刈谷田川遊水池について



田んぼダム行政視察

総合計画策定調査
特別委員会報告

11月11日に総合計画策定調査特別委員会を開催した。提言書（案）について協議し、11月21日に議長から市長に提言書が提出された。（提言書の内容は、魚沼市のホームページから閲覧可能）

また、12月18日に市長から議長へ、各提言事項については貴重な意見として参考にし、第三次魚沼市総合計画の基本構想及び前期基本計画を策定したいと回答があった。



議長から市長へ提言書の提出

皆さんからの声を大切に

令和6年度 第2回 市民の声を聞く会

～議会報告会～

魚沼市議会では、開かれた議会を目指し市民の声を聞く会（議会報告会）を10月31日に「宇津野集落センター」と「穴沢ふれあい会館」の2会場で開催しました。今回の報告会では、9月定例会と令和5年度決算審査について報告をした後、参加者の皆さまと意見交換会を行いました。

いただいた貴重なご意見は、各担当委員会で協議し、今後の市政運営に反映していくよう取り組んでまいります。



いただいたご意見の一部を紹介します

温水プールについて

- 9,000人以上の署名が出ている。もっとプールのことを真剣に考えて欲しい。
- 議員発議はできないのか。



農業の柱を育てる動きについて

- 今後に向けて、コシヒカリ以外に柱となるものを育てる動きはないのか。
- 地元の産業を立ち上げるような形で皆が一体で取り組み、市がサポートする仕組みができないか。



空き家対策について

- 集落内の空き家が増えていく状況で、空き家バンクに登録しても買い手がつかない。



タクシー券について

- 只見線でも使えるようにならないか。
- 福祉タクシー券もタクシーに限定せずに使えるようにならないか。



寿和温泉の利用料について

- 守門温泉白石荘と同額にできないか。
- 市内・市外で区分してほしい。



市民の声



下新田
尾山 寿一さん

魚沼市に移り住んで21年です。走る競技で膝を壊した経緯があり、膝に負担を掛けない健康作りを意識していました。2023年、日中に自分の時間が取れる環境になったことから、四季や天候に影響しない近隣のプールに思い切って通い始めました。プールの会員になり年間120日程度、利用しています。以降、健康診断の数値データが良くなり、頭も体も軽くなりました。

魚沼市にプール施設はなくなりました。諸事情から、市内プール設置が困難であることは理解しています。そこで市外の近隣プールと提携を図ることはできないでしょうか。

「近隣プール利用料の一部を補助する」、「うおぬま元氣ポイントに、必須ポイントの対象にする」等、まずは「市民が健康で過ごせる仕組み」を、できることから進めて頂きたいと思っています。



大沢 星 義廣さん

昨年、能登半島では地震や豪雨で甚大な被害に見舞われて社会的にも大きな影響をもたらしています。予期せぬ自然災害は防げないとしても、それを迅速に対処できる施策の重要性を改めて考えさせられました。住民が生活するうえでの利便性や快適性は大切なことですが、将来にわたり安全・安心を担保することも行政に課せられた重要な課題と思っています。山間部が多い当市にあっては災害そのものを防ぐ対策にとどまらず、主要道路が寸断された場合の迂回路対策も重要となります。これまでにも鋭意取り組みをされてきていますが、湯之谷東部の6集落と主要な観光地に通じる岩鼻地区周辺で道路の複線化が中断して、全く迂回路のない状況にあります。将来にわたり安心して住みやすい魚沼市を目指し着実な基盤整備を切に望んでいます。

「市民の声」の 原稿を募集します

● 字数3000字程度
● 住所・氏名(匿名での掲載はできません)
魚沼市議会事務局
〒946-8601
魚沼市小出島910番地

議会広報に関する アンケート

市議会では市民の声を反映した議会を目指し、今後の検討に向けて参考にするためアンケートを実施します。Webでの簡単なアンケートです。下記の二次元バーコードを読み取っていただき、アンケートにご協力をお願いいたします。



主なアンケート内容

- ・市議会だよりを読む頻度について
- ・タイトル・表紙について
- ・掲載内容(文字、表現、記事)について
- ・市内団体を紹介する「Voice」について など

アンケート内容の詳細は二次元バーコードを読むか、市ホームページの市議会のページをご覧ください。

アンケート用紙をご希望される場合は、議会事務局までご連絡ください。

議会アンケート実施期間

令和7年2月28日(金)まで



電話 025-793-7444 FAX025-792-1260
電子メール gikaizimu@city.uonuma.lg.jp

あとがき

あけましておめでとうございます。
皆さまが良い年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は能登半島地震の災害からスタートし、地球温暖化による豪雨や土砂災害、猛暑が日本列島のみならず世界中に大きな被害をもたらしました。このまま温暖化が進むと、近い内に人類・食料・生態系への影響度は最悪な状況を迎えてしまう、と、国連気候変動条約COP29で、温室効果ガス排出量削減の対策強化を世界に向け訴えました。私たちも生活の中の身近なところから取り組むことが大切だと考えます。未来の地球と人類のために！

(大桃俊彦)